

天神山のアトリエ

正会員 藤野高志君

コンクリートの壁と全面ガラスの屋根面に覆われた少々歪んだキューブが、幹線道路に沿って建つ。建物内部には太陽の光がそのまま差し込み、土の床（地面）には草木が生き生きと育ち、それらの木々やパラソルの下に人が集まる。内部なのか外部なのかが反転して見える不思議な光景である。

体験するまでは、仕事場としては室内環境的に厳しいのではないかと予想していた。しかしながら実際に訪れてみると、エアコンに頼ってはいるものの（それほど大きなエアコンではない）、真夏の暑い日でありながら不快さはない。木々の香りや木漏れ陽の変化を楽しみながら、独特な心地よさをもった時間を過ごすことができた。

断熱や遮音などの性能の向上が第一義となっている今日的な評価の体系に対する批評としても位置づけられる。人間の自然への向き合い方のオルタナティブを示すことで、建築がつくり出すことのできる快適さを探求し直そうという試み、というわけである。

（「作品選集 2013」選評より）